

平成 30 年度構造工学セミナー企画案

「センサ・ロボット技術を活用した構造物の診断技術の現状と課題」(仮題)

社会を支える多くの基盤構造物の高経年化が進むなかで、2012年の笹子トンネル事故のような重大事象も顕在化している。維持管理費の高まりや熟練技術者の減少という状況下において、構造物を合理的に維持管理していくためには、診断技術の効率化や高度化が必要不可欠となっている。

構造工学委員会では、常に先端技術の構造工学分野への応用を模索して研究活動を推進して参りました。平成 29 年度の構造工学セミナーでは、近年注目されている人工知能 (AI) を取り上げて、「人工知能(AI)の構造工学分野での応用可能性を探る」と題して開催しました。今回の構造工学セミナーは、構造物の診断技術の現状と課題、センサ・ロボット技術を活用した構造物の診断技術の適用事例、こうした技術の適用をどのように図っていくのか、などについて考えてみたいと思います。基調講演とパネルディスカッションによるセミナーを企画いたしました。多くの皆様の参加をお待ちしております。

(参加お申込み <http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>)

1. 主催：土木学会（構造工学委員会）
2. 期日：2018年10月15日(月)
3. 会場：土木学会 講堂
4. 定員：約 150 名
5. 参加費：会員 3,000 円 非会員 5,000 円 学生 1,000 円
6. プログラム

司会：松尾 豊史（電力中央研究所）

13:00～13:10 開会挨拶 構造工学委員会委員長 中村 光（名古屋大学）

13:10～14:00 基調講演 1 「構造ヘルスマニタリングにおける特徴量抽出・判定の現状と課題」
金 哲佑（京都大学）

14:00～14:50 基調講演 2 「インフラマネジメントプラットフォーム(i-DREAMs) の社会実装と今後の展望」
土橋 浩（首都高速道路）

14:50～15:10 休憩

15:10～16:50 パネルディスカッション –センサ・ロボット技術を活用した構造物の診断技術–
コーディネーター：長山 智則（東京大学）
パネリスト：金 哲佑（京都大学）
土橋 浩（首都高速道路）
朱牟田 善治（電力中央研究所）
高瀬 和男（オムロンソーシアルソリューションズ）
松山 公年（日本工営）

16:50～ 17:00 閉会挨拶

以上